

## 令和4年度府中市立浅間中学校 学校経営報告

「地域とともにある、安全安心で活力にあふれた一体感のある学校」を目指し、以下の点を重視し教育活動を展開するとともに、GIGAスクール構想の実現に向けてタブレット等の積極的な活用を図った。

- 生徒が社会の一員として、自らのよさや可能性を認識し、それぞれの特長を生かし、主体的に社会の変化を乗り越えられるよう、基盤となる力を育てる。
- 学校の特色を生かしつつ創意工夫を重ね、保護者や地域からの信頼を得て、生徒一人一人を見つめて、豊かな心情と健やかな体を育むとともに、それぞれに応じて、能力の伸長を図るための教育活動を展開する。
- 生徒、教職員、地域等が互いの役割を認識して、協力し合いながら生徒の学びを支え、ゆるぎなく教育活動に邁進できる環境を整備する。

### 1 教育活動への取組と自己評価

#### (1) 学習活動

生徒に個別最適な学びを提供するため、学校、保護者、地域社会との連携を図るとともに、ICT等を活用した教育活動を展開しその充実を図った。

2年目となる東京都授業改善推進拠点校として「学びに向かう力」の指導と評価について実践研究を推進した。

#### (取組)

- ①「主体的に学習に取り組む態度」を育成する指導と評価の具体化と質の向上を図るため、視点を明確にした研究授業を全教員が実施した。その中の3回については、都及び市の指導主事等を講師として依頼し指導・助言を得て深化を図った。
- ②事情により登校できていない生徒に対してタブレットによる授業配信等を行った。
- ③教科により反転学習等を取り入れ、タブレットを活用した家庭学習の充実に取り組んだ。
- ④生徒による授業評価等にタブレットを活用し、授業改善に速やかに取り組めるようにした。

#### (自己評価)

- ①全教科で「問題解決過程と取り入れた授業展開」「単元や授業のルーブリックの生徒への提示」の二つを研究授業等で実践し、生徒が自ら学習状況の把握と学習の振り返りを行うことができたと考える。
- ②タブレットによる授業配信等については、日常的に行っている。
- ③反転学習等については、動画作成に時間を要することやデジタル教科書を活用することなども視野に入れた取り組みを検討することができた。
- ④タブレットで授業評価を行うことにより、集計を短時間で実行環境が整った。

#### (2) 進路指導・特別活動

進路指導においては、生徒が自分自身の適性を知るとともに、将来に向けて勤労観や職業観を育成する必要がある。そのため知識を習得するとともに職場訪問等の体験活動から得る実感を大切にしたい。一方で働き方が社会の変化とともに変わる中で、従来の職場体験にとらわれない学びを提供できるように工夫・実施した。

#### (取組)

##### ①職業調べ・職業講話の実施

第1学年においては、従来より行ってきた職業講話を校内で実施した。

## ②地域の職場紹介動画の作成

第2学年においては、これまで職場体験を受け入れていただいた職場について取材し、それを動画にまとめる取組を実施した。また、進路選択に向けては、知識・理解を深めるだけでなく、卒業生からの話を聞く機会を設定した。

③第3学年においては、進路決定に向けた知識・理解を深めるとともに、高校の普通科と専門学科の教員の話聴く会を設定した。

## ④変化する入学者選抜制度への対応

Web出願やスピーキングテストの導入など都立高校入学者選抜の変化に対応し、遅滞なく事務を進めた。

### (自己評価)

①職業講話においては、地域の方の協力を得て事業所の方に来校していただき、講話と質疑による学習を展開し事業所の話聞くことができた。

②地域の職場紹介動画の作成にあたっては、動画作成会社の協力を得て行うとともに、動画作成の方法と仕事の苦勞ややりがい等について聞くことができた。また地域の事業所等の取材では、それぞれの職業についての理解を図るとともに、特色等を焦点化する中で理解を深めることができた。

③高校の教員から話を聞く中では、高校での生活をはじめとして、専門学科についての理解を深めることができた。

④出願にあたっては、都立高校の出願方法の変更等に教育委員会と連携して迅速に対応できた。

## (3) 道徳・生活指導

### (取組)

#### (道徳指導)

①自分とは異なる意見をもつ他者と議論することを通して、道徳的価値を多面的・多角的に考え、自分自身との関わりの中で理解を深めるとともに、道徳的実践力の向上を図るため、考え・議論する道徳の授業を展開し、学年教員によるローテーション道徳授業を実施した。

#### (生活指導)

①生活全般において、礼節(礼を正し、時を守り、場を清める)を大切にし、生徒理解を深めるために、教育相談的手法等を用いた指導を実施した。

②避難訓練を登校時、休み時間、授業中、部活動中などの場面設定や抜き打ちでの実施など工夫すると共に、避難所での資器材の活用方法など実践的に行なった。

### (自己評価)

#### (道徳教育)

①道徳授業地区公開講座では、授業公開と保護者や地域の方をパネリストとしたパネルディスカッションを行った。保護者や地域の方から見た道徳の授業や学校、保護者、地域の果たす役割などについて協議を通して多面的な視点から地域で育てる道徳教育を捉えることができた。

#### (生活指導)

①スクールカウンセラーや関係諸機関等と連携するとともに、授業等での生徒の様子などを多面的に捉えて指導することができた。

②年度当初に基本的な避難について理解させ、それをどのような場面でどのように使うかを実践的に考え行動させる訓練は効果的であった。

## 2 学校運営に関する取組と自己評価

### (1) 市の施策や重点目標への取組と自己評価

#### (取組)

##### ①小・中連携の推進と具体的な取組

小・中連携の推進に当たっては、各教科等における指導の円滑な接続のため、カリキュラムと指導方法について研究授業と協議会を実施した。また緊急時の引き取りにおいて連携し対応するため、引き取り訓練を同日に実施し対応の共通化を図った。

##### ②都や市の研究協力校等の制度の活用や連携

東京都授業改善推進拠点校として、主体的に学習に取り組む態度を育成する指導と評価の研究に取り組んだ。また全教員が研究授業を行い相互に授業観察と意見交換ができるように工夫した。また、各学期に1回、研究授業に指導主事を招き指導・助言を得て研究を深めた。

##### ③GIGA スクール構想への対応と授業改善

タブレットを活用した教育実践として、次のことに積極的に取り組んだ。

- ・授業等における効果的な活用を図った。
- ・生徒による授業評価アンケート等に活用し迅速な授業改善に取り組んだ。
- ・感染症等により投稿ができない場合に授業配信をするとともに家庭学習に活用した。

#### (自己評価)

①3校が相互の授業参観を行い、教科ごとの協議会を通して小学校から中学校への学びの継続を意識した指導の在り方等について理解を深めることができた。

②問題解決過程を取り入れた授業展開とルーブリックの提示による生徒の自己評価を取り入れた授業に全教員が取り組み基盤を作ることができた。今後その精度を高めることが課題となる。

③授業においてタブレットを活用することや緊急時に感染症等により授業に参加できない生徒への授業配信を行うことは日常的になっており、容易に取り組むことができた。

## 3 次年度に向けた課題

(1) 東京都授業改善推進拠点校の取組を推進するとともにその精度を高め、主体的に学習に取り組む態度を育む指導と評価の充実を図る。

(2) 特別活動及び体験活動等の充実を図り、集団の中での自分の役割意識と責任感を育む教育の推進を図る。

(3) 地域と連携し職場体験等を含めた総合的な学習の時間の充実を図る。

(4) 不登校傾向の生徒の減少と個別最適な学びを支援する体制を整備する。